80　五大法律学校大懇親会

〔『法学新報』第六九号　明治二十九年十二月二十八日〕

○五大法律学校大懇親会

碧雲の天紅葉の地豪気満つ気既に満つ何そ発動せすして止む可けんや五大法学生の豪気今や発動して江東中村楼の大懇親会となり交誼益々厚く団結愈々固く以て聯合一致の動作を為し万丈

の気焔を吐き大学生特権附与に就き大いに反対運動を為し旗皷堂々競争試験場裡に真価を決せんとの意見を以て運動し去る十三日五大法律学校出身者及学生五百余名江東中村楼に会し大懇親会を開けり当日は笛木隆祥氏（明治）開会の旨趣を述へ井上竹次郎氏（明治）は委員会の経歴を報告し進んて今後の運動方法を述へ伊藤宗也氏（日本）は建白書の草案を朗読し齋藤又郎氏（法学院）は関西法律学校の書面を朗読し山岸與四郎氏（専門）は三宅雪領（ママ）氏か日本新聞に論せられたる大学保護説を駁し齊藤巌氏（法学院）は大学生に特権を与ふるは人材登庸の範囲をして狭隘ならしむるの結果を生する所以を詳論し弁護士卜部喜太郎氏（法学院々友）は委員の紹介によりて演場に出て英雄の出するや豈に独り形式的偉大の大学のみならんや寧ろ形式的狭少にして実質的偉大の私立学校に待つ所なかる可らす吉田松陰の門下に鏹銭一百文を以て入塾したる木戸参議を出したるは其適例に非すやと其論旨を敷衍し大学は羊頭を掲けて狗肉を売るものなりと痛詈し其鋭鋒快利触るゝ所則ち切る凄涼人をして近つく能はさらしむるの風自ら超然たり弁護士花井卓藏氏（法学院々友）は委員の紹介により立てり其胆識勁抜矯々自ら負ふ好個の丈夫満場の視線は氏の身辺に集りて粛然たり氏は学校の品格より論破し大学派の無能力なるを嘲詈し此の問題に付ては全力を尽し正々堂々君子の争を為さんと憤慨痛切の雄弁は大いに学生を起たしめたり弁護士高橋庄之助氏（明治校友）は先きの自由党の弁士雷名既に在り例の憑河の弁は滔々説き去り論し来り円石の恰も渓厳に転下するか如し其言ふ所又雄大にして非大学派の意気豪然たり其より和気揚々として酒宴に移り山内幹藏（専門）田中恒吾（和仏）奥澤六助、小野田祐介、眞舟多吉（何れも未詳）の諸氏交々も演説をなし終て両陛下の万歳五大法律学校の万歳を三唱し非常の盛会は至て平静に散会せり（法狂生投）、